

建設業と地域の元気回復助成事業

山口市阿東

地域の元気を回復しよう  
山口県阿東地域活性化協議会の二年目

昨年、国土交通省が公募した「建設業と地域の元気回復助成事業」に選定された「山口県阿東地域活性化協議会」。町おこしに取り組み阿東地域の建設業者6社で構成される協議会は様々な方の協力を受けながら、今年で二年目を迎えました。その中で、様々な課題が浮き彫りになり、油糧系景観作物である菜の花やひまわりの栽培・商品化する問題や広報活動として、ウェブサイトの立ち上げや現地イベントなど行いました。

■山口県阿東町地域

活性化協議会の二年目

「休耕田を利用した油糧系景観作物の栽培・商品化による町の新しい特産品開発と観光振興に関する事業」として事業計画を立ち上げた「山口県阿東地域活性化協議会」。平成21年6月に国土交通省から選定され、今年で2年目を迎えました。油糧系景観作物である菜の花やひまわりは油が採れ、視覚的にも美しい作物。これらを栽培・商品化していくうえで、農地と水の確保、栽培マニュアルの制作、観光農園化への取り組み、観光PR活動など、さまざまな課題のヒントを探るため、積極的に活動されている2つの地域を訪れました。



■地域内循環モデル  
「あいとう菜の花  
エコプロジェクト」

初日は、滋賀県愛東町にある「あいとうエコプラザ菜の花館」へ行きました。この地域より始まった「菜の花エコプロジェクト」は、地域内循環に取り組み地域モデルとして全国的に広がりを見せしており、菜の花館は地域の拠点となっています。



まず施設内の「BDFプラント」や「炭化プラント」などの設備を見学。その後、自治会と団体行政が協働で行う「あいとうリサイクルシステム」の説明を受けました。

最後に互いの意見交換を行い、大変有意義な時間となりました。

■「ひまわりの里」

佐用町を訪ねて

二日目は、ひまわりの里として有名な兵庫県佐用町。はじめに佐用町役場を訪ね、これまでの概要、栽培や品種等の説明を受けました。



この地域でひまわりの栽培を始めたのは平成2年。「ハイブリッド・サンフラワー」という採油用の品種を栽培しており、毎年約200

万本ものひまわりが大人の背丈ほどに成長します。広大な畑一面に咲き誇るひまわりを見ようと、毎年多くの観光客で賑わうそうです。また、町内の複数の地区では少しずつ開花時期をずらして栽培し、長い期間ひまわりの花が楽しめる工夫もされています。

また、平成7年に建てられた「南光ひまわり館」では、ひまわり油の搾油や製品化、加工商品の開発に取り組んでいます。特に、全国に数台しかない搾油機により搾油された「南光ひまわり油」は、無添加・無農薬の自然な油として商品化に成功しています。



今回の視察では「観光振興と商品開発」という観点から、非常に参考になりました。地域住民と企業・団体が手を取り合い、身近なエコに取り組むことによって地域の元気を盛り上げていく姿を、阿東地域の今後の姿として目指していきたいと考えています。

## 「菜の花パウダー」を用いた特産品の開発

昨年10月の農地再生後、種時きが行われた圃場。誰の手も入ることなく休耕田となっていた農地が、今年の4月には一面綺麗な菜の花畑となりました。これを丁寧に収穫し、次に「微粒細パウダー化」を行います。

独自の超微粉碎技術をもつ「三笠産業㈱」と連携し、花の色がまだ美しいうちにパウダー化。このパウダーを利用し、どんな二次製品への展開がよいか検討を行いました。

「菜の花の風味がなるべく生きたものに」というコンセプトで検討を行った結果、「コロクケ」「メロンパン」「アイスクリーム」の3つの製品化に決定。早速、食品加工会社の協力のもと、試作品の制作に取りかかりました。しかし、通常のパウダーとは違

い、菜の花パウダーは非常に水分を吸収しやすく、また、菜の花独特の香りも強いため制作は予想以上に難航。そのままだと食感もぼそぼそとしたものになり、味も臭みが残ってしまいます。イベントで美味しい製品が来場者に振る舞えるよう試行錯誤は繰り返され、ようやく納得のいくものが完成したのは8月に入った頃でした。

その頃、ひまわり畑ではイベントの準備が着々と進められていました。道路から見えるようノボリを立て、畑には看板を飾り、夜も楽しめるよう夜間照明が用意されました。また、少しでも多くの来

## 阿東観光農園イベント 「みんな集まれ！ 夏休み、ひまわり畑」

場者に来て頂くために、事前にチラシを準備。近隣の小学校などに配布し、あとはひまわりと共に開催を待つのみとなりました。そして運命の開催日、8月21日。非常に夏らしい青空の広がる阿東観光農園では、一面にひまわりが咲き誇る中、続々と来場者が会場へ集まりました。

まず始めに、協議会代表で三芦建設社長の三戸剛氏が挨拶。「私たちの取り組みが観光振興と繋がります、もっと地域や建設業を盛り上げていきたい」と話しました。続いて、山口県土木建築部管理課長の河村行則氏、山口農林事務所所長の荒瀬尚良氏による来賓挨拶の後テープカットが行われ、イベントは盛大に幕を開けました。

当日は厳しい猛暑日にも関わらず多くの家族連れやご夫婦など280名が訪れ、ひまわり畑を見ながら、試作品のコロクケやメロンパンを

試食。「くせがなく美味しい」「これはお土産にいいね」などの声が高まりました。また、子ども向けにアユのつかみ取りやヨーヨー釣りなどの催しも用意し、会場は終始賑やかな歓声に包まれていました。

## 今後の課題と目標

助成を受けられる2年間という限られた期間で、様々な方向性を模索してきた山口県阿東地域活性化協議会。観光振興と建設業とをいかにしてリンクしていくかが今後の課題であり、また元気を取り戻すための手段となります。補助事業が終了となる来年度からが、いよいよ本場の船出。山口県地域における元気回復のきっかけとなるよう、これからも山口県阿東地域活性化協議会は走り続けます。



▲ ひまわり畑

▲ 少しずつ集まる来場者



▲ 協議会代表 三戸剛氏の挨拶

▲ 来賓の方々によるテープカット



▲ 菜の花アイスクリーム・コロクケ・メロンパン試作品と配布の様子



▲ 阿東観光農園ウェブサイト  
<http://www.atou-hanabatake.com>

▲ イベント告知チラシ



▲ yabニュース（8月21日夕方放送）と山口新聞（8月22日号）